

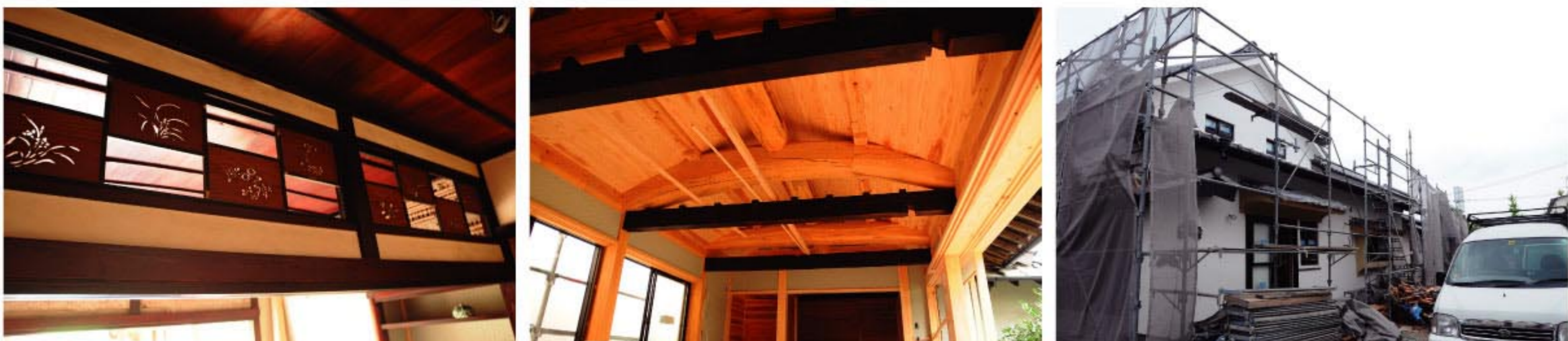
観 住まい

気づきの共鳴。
すべてはひとつ。

人間の肉体はの上なく精妙な送受信機。意識や想念は電波と同じ波動エネルギー。従って、肉体(含む脳)というバイオコンピュータは、プログラミングされた(条件づけられた)ソフトウェアの指示通りに作動してしまふ。長期間、意図的にコントロールされている情報。その情報に基づいた教育、そしてメディア報道。人々が情報を鵜呑みにして信じ込み、真実だと思ひ込むと、この固定観念は、肉体を自動的に作動させてしまふソフトウェアとして機能する。

60年代後半頃から、このプログラムは何か変だぞ! と人々は気づき始めた。気づきの波動は電波同様、瞬時に時空を超える。気づきは世界中にどんどん広がって、深化し、今、大きく次元上昇しつつある。Re(再び)membering(ひとつになる)。気づきとは人々がもとも知っていたこと(=万物一体)を思い出しているに過ぎない。

9月6日。古民家再生中の八戸の井手家。鹿児島ひとみさんを講師に招いて「シックハウス症候群・化学物質過敏症」の学習会が行われた。質疑応答を含めての2時間半。人々は間違いないとRememberingしているのだ、と観じた。



夢木香・松尾さんの気づき

長年材木屋を営んでいた松尾さんが、工務店として家作りをはじめたのは十数年前のこと。はじめた頃は材木以外の建材も使っていた。10年程前通ったセミナーで、石油製品(含建材)、ビニールクロスなど化学製品がいかに人体に害を与えているかを学んだ。シックハウスでない、生命と相和して安心して住める住まいとは、自然素材以外にならなかつた。

9年前に夢木香を設立。日本民家再生協会にも加盟。学べば学ばほど、日本古来の伝統工法の凄さ、すばらしさにも気づかされた。

松尾さんの用意したレジュメの1頁目に、池田武邦氏の気づきが載っている。池田氏は、日本の高層ビルの黎明期に、霞ヶ関ビル、京王プラザホテル、新宿三井ビルなどを手がけた建築家。自分が設計した快適で効率的な超高層ビル最上階にあるオフィスから地上に降り立つたとき、雪が降っていた。震える寒さだったが、なぜか安らぎ、とても気持ちが良かった。天を仰ぎ、「人間も自然の一部なんだ」とつぶやいていた。

以来、人工的な環境を前提とする建築に疑問を持つようになり、それまで自分が懸命に行ってきた活動を全否定せざるを得なくなつた。70年代初頭のころとだと言ふ。ベトナム反戦運動が全米に広がり、ウッドストックの野外ロックコンサートに数十万人のヒッピーが集まった。60年代後半。アメリカで一気に顕在化した気づきの波動が、全世界に波及し始めた時代でもある。

現在 85歳になる池田氏は、大村湾に面した茅葺きの家で、囲炉裏を切った板敷の部屋の雑巾がけ3回、ぬか磨き4回を、毎朝の日課にしていると言ふ。

鹿児島ひとみさんの気づき

転勤族だった鹿児島さん一家が佐賀に戻ったのは、16年前のこと。当時、2人の子供は中学2年(姉)と小学3年(弟)だった。次の転勤にはついていけないよね、と言うほど、子どもたちもひとみさんも佐賀が大好きになつた。

そんな思いもあり、平成7年、北川副に家を新築。大手住宅メーカーの高気密、高断熱が売りの今風住宅。シックハウスが話題になりはじめた頃でもあり、知人から大工さんに頼んだら、とアドバイスをもらったが、子供たちもとても元気だし、うちは大丈夫よ、と。ところが、引越してまもなく、子供たちが目が痛い、鼻水が出ると言ひ出した。高校生になつていた娘さんは、登校時、玄関先で激しい吐き気に襲われ、動けなくなつてしまふ。そんな症状が何日も続き、医者に診せるが、オール5の体。医者は、「怠けでしよう、叩いてでもいかせなさい」と。

ひとみさんは娘さんの症状を直に見ていたから、けつして愈けなかなではないと分かっていた。でもなぜそうなるのかはわからないうまま、休学させた。娘さんの生活は昼・夜逆転してしまふ。中学生になつていた息子さんは元気に学校に通っていた。この子は大丈夫だと思っていた。ところが高校生になつたある日、

朝ごはんを食べ終わると、そのまま眠ってしまった。絶え間ない眠気に襲われる睡眠障害。後でわかつたことだが、中学時代から学校に着くとすぐ眠っていたそう。

子供たちのこうした症状が、ひとみさんにシックハウス症候群や化学物質過敏症を気づかせたのだという。NPOシグナルキャッチを立ち上げ、シックハウス症候群や化学物質による疾患の啓発活動、行政に対する提言を行い、9年目に入る。

松尾さんの夢木香設立も9年前。気づきはびたりとシンクロしている。

発症すると:

ひとみさんの用意したレジュメは簡潔だが、とてもわかりやすい。大学での講演の機会が増えていたが、シックハウス症候群や化学物質過敏症など無縁と思つている学生たちが、レジュメの最初の一行「生活空気環境からくる体調不良と問題行動」を読み始めたとき、えっ、これって自分のことだと驚いて、真剣に耳を傾けるようになるそう。

「なんとなく、朝なかなか起きられない、夕方になるにつれて元気が出る。おなかの中が熱く、強い張りや便秘。貧血の症状が出ない。足に力が入らなくなる。突然怒りの塊が体内に入ってくる。人とコミュニケーションするのがいや。病院に行こうにも、自分の症状の説明のしようがない。大声を出したくなる。頭の中が真っ白になることがある。片付けられない。感

情がなくなつた気がする。自分の心を自分で所有してない気がする...」

その原因となるものは、新築の家だけでは無い。職場、幼稚園、保育園、学校、公共施設など、すべての建物。(合板・壁紙・接着剤・畳・消毒剤・防菌剤・防虫剤・殺虫剤)便利だと思つている生活用品の殆どすべて。(家具・じゅうたん・カーテン・合成洗剤・電気製品・ビニール類・防臭剤・芳香剤・化粧品・香水・印刷物・ワックス・食品添加物・パソコン・除草剤)

レジュメには、人体が生涯で摂取する物質の重量比を円グラフで示している。83パーセントが空気! 食べ物から体内に取り込まれる化学物質は全体の1割に満たない。腸壁で吸収され、肝臓を通るので、ある程度解毒される。

しかし、空気中の化学物質は肺から直接、血液や体液に溶け込み、容易に体内に侵入し、全身に回つてしまふ。しかも排泄されずに、体内に蓄積されていく...化学物質は少量なら安全とされてきたが、チリも積もれば、許容量に個人差はあるが、限界値を越えると、ある日突然発症する。そして、職場の人間関係、受験などをストレスと捉えてしまふと、本人の意識が負

化学物質(波動)の複合汚染に加工してしまふのだ。精神がおかされ、人格崩壊へとつながっていく...

現在、大人の発症者は7、10人に1人、幼児では3人に1人とされている。ひとみさんは子供さんと一緒に気づきを深め、障害を一つ一つ乗り越えていったプロセスを話してくれました。そして最後に、「でも、また間に合います。子供たちを救うことは出来るんです。」

そう、まだ十分に間に合う。すべては「ひとつ」のものからできている、すべては「ひとつ」のもの。様々な角度からの表現に過ぎないのだ、と気づいてしまへば。無駄なもの、意味のないものなど存在しない、シックハウスも複合汚染も人間の無知がつくりだしたものには違いないが、人々の深い気づきに必要

状況は常に中立。正も負も意識が選択しているにすぎない。負と捉えて、恐怖心から戦いを始めてしまふと、生命エネルギーは崩壊へのスパイラルを描き始める。正と捉えて、すべてを受け容れると、愛の感情に満たされ、生命エネルギーは蘇生へのスパイラルを描き始める...

夢木香の住まいづくり、見学会、学習会は、大いなる気づきのきっかけ作りの次元に達している。次回は10月10日、11日、12日の3日間、いよいよ井手家の再生完成披露。

この空間に身をおくだけで、人々の気づきはさらに深まるに違いない。

長崎街道八戸の家完成内覧会
 日時 10月10日(土)11日(日)12日(祝) 10:00~17:00
 シックハウス学習会 鹿児島ひとみ氏 10月11日12日 13:30~14:30
 キッズルームあります。
 場所 長崎街道八戸の家 井手家
 有限会社 夢木香
<http://www.yumekikou-happy.com>
 フリーダイヤル 0120-835-832
 ご来場いただいた方にNPO民家再生協会発行『民家』進呈



共催 佐賀の古民家に学ぶ会
 佐賀県には、耐久性をそなえ、地元産材を多用し、人と環境にやさしい土壁の古民家が数多く存在します。
 また、街の景観維持にも寄与しています。
 古民家に学ぶことにより、佐賀県産の木材、竹、土などの資源を多用した、環境の世紀21世紀にふさわしい、住まいづくりを推進提案します。

施工 **ゆめきこう 有限会社 夢木香**
 ☎0120-835-832
<http://www.yumekikou-happy.com>
 e-mail: yumekikou@globe.ocn.ne.jp
 TEL 0954-69-8333 / FAX 0954-69-8334
 佐賀県鹿島市大字三河内甲 2487
 日本民家再生協会正会員

NPO シグナルキャッチ
 代表 鹿児島ひとみ
 TEL 090-4518-5595
<http://cssaga.nomaki.jp/link/link.htm>
 〒840-0801 佐賀市駅前中央1丁目8-32
 1スクエアビル3F レターケース18番
 お気軽に相談ください